

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	あいの実ラズベリー		
○保護者評価実施期間	令和7年 10月 24日	～	令和7年 11月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 7
○従業員評価実施期間	令和7年 11月 15日	～	令和7年 11月 20日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 16日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	限られてはいるが、スペースを有効に活用できる活動とケアで分けることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の準備を事前に行うことができる</li> <li>活動するタイミングですぐに活動に入ることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動後に利用者様の反応(表情・興味・集中度)を簡単に記録し、次の活動に活かす</li> <li>活動内容を季節やイベントに合わせて変化させ、マンネリ化を防ぐ</li> <li>活動の写真を掲示したり、家族に共有したりして、活動の価値を可視化する</li> </ul>
2	利用者に関する情報共有を可視化している	<ul style="list-style-type: none"> <li>出勤していないスタッフまでは共有しなくてもよい情報をホワイトボードを用いて情報提供している</li> <li>細かいところまで共有しやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「重要部分だけ」を写真に撮り、チャットツールに簡易共有する</li> <li>出勤していないスタッフが確認すべき内容を明確化し、共有の過不足を防ぐ</li> <li>重要な情報は、ホワイトボードからデジタルに転記して残す</li> </ul>
3	「外出活動」の一環として、施設での体験や店舗での買い物、イルミネーションお観覧などを行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>刺激や興味・思い出になるような場所を外出先を選ぶようにしている</li> <li>できる限り家族などにも声掛けし、参加してもらうようにお知らせすることもある</li> <li>利用者別に活動中の様子を写真などで記録に残すようにしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者と家族の思い出や刺激にもなってほしいと考えているので、参加しやすいよう事前のお知らせの強化</li> <li>家族参加のメリット(思い出づくり・成長の共有など)を短く添えて、参加意欲を高める</li> <li>家族が参加できない場合でも、動画や写真で思い出の可視化を工夫をする</li> </ul>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	乗降スペースが1台のみしかなく、路駐をすることが多いが車や人の往来があり危険	<ul style="list-style-type: none"> <li>専用の乗降スペースを確保できる場所がない。</li> <li>送迎時間が集中しており一台づつしか対応できない</li> <li>スタッフ数が限られており、乗降の誘導や安全確保に人手を割きにくい</li> <li>バギーや車椅子の乗降に時間がかかり、停車時間が長くなる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタッフによる誘導役を配置し、車の誘導・周囲の安全確認を行う担当を決め、事故リスクを下げる</li> <li>到着前に電話などで連絡をもらう仕組みをつくる</li> </ul>
2	モニタリングで聞いた情報がタイムリーに共有できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報共有のタイミングが定まっていない。</li> <li>チャットツールはあるが、活用が統一されておらず、情報が流れてしまう</li> <li>情報の書き方や重要度の基準が曖昧で、何を共有すべきか判断が難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリング後、スタッフ会議を行い共有のタイミングを固定化</li> <li>情報の見える化を強化する</li> <li>ケアや活動が立て込む時間帯を避け、共有しやすい時間帯を決めておく</li> </ul>
3	冬季の室温調節が難しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物の断熱性能が低く、外気の影響を受けやすい</li> <li>体温調節が難しい利用者が多く、適切な温度の幅が狭い</li> <li>個々の快適温度が違い、全員に合わせるのが難しい</li> <li>スタッフが忙しく、こまめな温度調整が後回しになりやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>室温の目標範囲を明確にし、職員全員で共通認識を持つ</li> <li>出入口付近に簡易カーテン・パーテーションを設置し、冷気の侵入を軽減する</li> <li>室温管理の状況をホワイトボードに記録し、寒い場所・暖かい場所を見える化する</li> </ul>